

① 班活動を通して、「おとなしく協調性がある」というよさを伸ばさせる。

② 「いいこと見つけたカード」を活用し、T子によさを発見させる。

③ 「よさのレーダーグラフ」によって、友達が評価しているT子のよさを認識させるとともに、T子に対する接し方を工夫する。

④ 月ごとの生活目標を決めさせ、目標達成のための支援を行い、達成感を味わわせる。

⑤ 一人一人のよさを「学級通信」に掲載し、自信を持たせる。

⑥ 帰りの学活で、1分間スピーチを行い、人前で話すことへの自信を付けさせるとともに、新たなよさの発見に努める。

⑦ 言葉かけなどを通して賞賛と支援をし、自信を持って行動できるようにさせる。

### (3) 支援の実際とT子のようす

#### 「班活動」

係活動でよさを発揮

月2回、金曜日に班会議の時間を設定し、班内の問題点や目標、班の活動を決めている。

・ 6月の班会議で班長に任命した。初めはいやがっていたが級友から励まされ、班長を引き受けた。イラストが得意なことから新聞係にもなった。

・ 7月13日、班新聞を発行した。大変うれしそうにしていたので、「立派な新聞ができた、さらに今後もがんばるように。」と言葉をかけた。その後、自主的に班新聞を発行している。

その他、班目標の反省や問題点の協議などの班会議で司会を務めていて、声も徐々に大きくなっている。

#### 「いいこと見つけたカード」

T子のよさを友達も発見

・ 7月 「T子さんが、帰りにみんなの机をそろえているを見た。ほかの誰もが嫌がる仕事を

自主的に行い立派だと思った。」

・ 9月 「T子さんは掃除や奉仕作業をまじめにやっている。」などが書かれたカードをもとに「みんないいところはしっかりみているんだね。今後も先頭に立って行動しよう」などの賞賛の言葉をかけた。T子は素直に受けとめ、うれしそうであった。

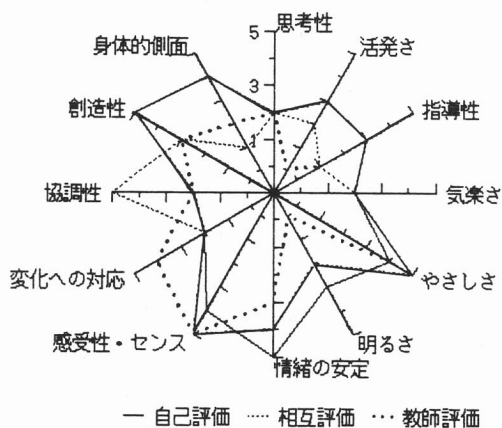
#### 「よさのレーダーグラフ」

T子が見方が変わった教師

友達は「協調性」「感受性やセンス」「やさしさ」などT子が自己評価している以上に高く評価している。したがって、これらの点は係活動を通して伸長する。

また、T子の「指導性」「明るさ」「活発さ」についての自己評価は、教師の評価より高い。教師は見方を変え、T子がこれらのよさを発揮できるように、生活班の班長に任命する。

(よさのレーダーグラフ)



#### 「生活目標設定」

生活目標達成のための支援でよさを伸長